

エリウゲナ思想と中世の新プラトン主義

R・L・シロニス著

創文社刊 1992年



【目次】

序言

序論

第一部 教父時代の新プラトン主義——エリウゲナに至る道

第一章 ギリシア教父における神の像である人間——キリスト教的人間像と新プラトン主義

第二章 ニュッサのグレゴリオスにおける否定神学——神的暗闇と新プラトン主義

第三章 偽ディオニュシオスとエリウゲナにおける「善の自己拡散」——神の創造と新プラトン主義

第四章 偽ディオニュシオスとエリウゲナにおける肯定神学と否定神学——神認識と新プラトン主義

第二部 エリウゲナにおける神と人間——キリスト教的新プラトン主義の伝達

第五章 エリウゲナにおける肯定神学と否定神学の弁証法——隠れた神と神現

第六章 エリウゲナにおける肯定神学と否定神学の意義と根拠——神についての知と無知

第七章 エリウゲナの人間論——神の像としての人間

第八章 エリウゲナの認識論における新プラトン主義的性格——知性と否定神学の優位

第九章 エリウゲナの学問論——信仰と理性の調和

第三部 エリウゲナとそれ以後の時代の思想——中世思想の連続性と発展

第十章 十二世紀の神秘神学者に見る神についての知と無知——神に関する存在論的・認識論的パラドックス

第十一章 中世思想における理性と信仰——知解を求める信仰

第十二章 現代における理性と信仰——哲学的神学の現代的意義

第十三章 神に関する言葉の類比——現代における実存論的・存在論的
話の意義

付録一 西田幾多郎における中世のキリスト教神学者の引用——西田哲
学とキリスト教的新プラトン主義との接点

付録二 現代において神を語ること

あとがき

文献表

索引
